

# フードバンク TAMA 会報



**食を必要とする  
「1人」のために**



特定非営利活動法人フードバンクTAMA

〒192-0085 八王子市中町 7-9 中町ビル 4F

TEL:042-686-2512

Email: foodbank.tama@gmail.com

URL: http://www.foodbank-tama.com

## フードバンク TAMA をめぐる様々な変化の中で...

▲フードバンク TAMA は2年前の5月にスタート。その当時の全国のフードバンク団体数は77団体でしたが、現在は88団体でさほど増えていません。

子ども食堂は、2年ほど前は約80箇所であったものが現在では約2,200箇所になっています。マスコミで頻繁に取り上げられるようになり、子ども食堂の認知度は著しく高まりました。ネーミングのわかりやすさと親しみやすさに加え、ダイレクトに子どもにクローズアップされる点も全国的な広がった理由ではないでしょうか。

▲一方、フードバンクはほとんど増加していません。貧困家庭の子どもに着目している点は子ども食堂と重なりますが、食品の調達とその保管場所、提供先との連携、資金調達など、かなりの大変さがともなうことが開設をためらう一因ともなっているようです。

▲さて、フードロスですが、日本の食品ロス量は、621万トン（農林水産省調べ）ですが、それに対して日本全体のフードバンク取扱量は約6,000トン。よって、フードバンクの食品ロス効果は、約0.09%削減にしか過ぎないのです。その意味するところは、フードロス対策としてフードバンクを対等に位置づけることはできないということかもしれません。

▲フードバンク TAMA の活動をスタートさせた頃から比べると、取り扱う食品量は著しく多くなりました。毎月約3トンに及んでいます。

▲食品関連企業様や個人の方々から毎日のように寄贈のお申し込みが来るようになりました。ご家庭での保存食品や作られた野菜など、食品内容も多種多様になりました。

◆フードドライブも各市のごみゼロ推進課様、日野自動車様、町田ゼルビア様の試合当日での実施など、機会が増えてきております。

▲活動が多角的になるに従い、ありがたいことにボランティアスタッフも増えてきました。現在、10数名の方に、シンポジウムやフードドライブでの役員など活動をお手伝いいただいています。

▲資金面ですが、企業様や個人の方々からの寄付、本当にありがとうございます。また、「子供の未来応援基金」の補助金等をいただけるなど、当面の活動にあたっての資金は、なんとか対応できている状況にあります。ただし、補助金や助成金は単年度が一般的でもあり、翌年度の資金をどう捻出するかはこの先何年も続くものと覚悟しています。

▲さて、日本の貧困率でよく言われる6人に1人の子どもが貧困状態。それに対して、私たちが行っている活動がどれほどの効果を果たしているのか？その問いかけに対してフードバンク TAMA が標榜している「食を必要としている「1人」のために」がその答えであって良いのではと思うのです。その「1人」を何人増やせるか、それが私たちの取り組みに他なりません。その拡充のために、皆様のご支援をなにとぞよろしくお願いいたします。

## フードバンク活動に携わって：ボランティアスタッフの声

▲3月からフードバンク TAMA の活動に参加しています。食品配送や仕分けなどの仕事だけなので、大きな貢献はできませんが、これから少しずつ活動について理解を進め、自分として何が出来るか考えていきたいと思っています。

▲近年、日本では飽食の時代を象徴するかのようになり、テレビをつければどのチャンネルも「料理」や「食べ歩き」などの番組で溢れています。豊かな食を楽しむのは確かに幸せなことですが、一方で十分な食事をとれない子供が多く存在することに、どれだけの人が気付いているのでしょうか。子供たちは社会や政治に抗議の声を発信することもできず、厳しい現実を黙って受け入れ、耐え忍ばざるを得ないのでしょうか。子供の場合、自らの責任でこうした境遇に置かれたわけではないので、大人の責任を感じます。

私自身、こうした子供たちの存在は報道などで何となく聞いていましたが、フードバンク TAMA をお手伝いするようになって、食品配布の要望が大変多いことをあらためて知りました。

▲食品ロスの問題も注目されていますが、行政の手が届かないところで厳しい食生活を強いられている子供たちになんとか支援の手を差し伸べてあげたいと思います。

▲フードバンク TAMA は、「子供たちを支援したい」という意識を持つ方々が、無報酬で個人的に参加するボランティア組織です。メンバーがそれぞれ私的な時間を割いて活動に参加し、自家用車で食品を配送するなど徹底したボランティア活動と言えます。今後、食料配布の対象をどう広げていくのか、活動の規模をどうするのかなど課題も多いようですが、皆で協力して知恵を絞っていききたいと思っています。

奥野知秀（多摩市在住：ボランティアスタッフ）

# 食品企業様や個人の方から多くの寄付食品が届けられました

受贈 ▶ 主食：1.8 トン 麺類：820 キロ 缶詰：958 キロ 野菜：2.7 トン 菓子：2.9 トン 調味料：3.1 トン

2017.10～2018.3の間、児童養護施設等へ寄付した食品の種類と量

提供 ▶ 主食：1.6 トン 麺類：642 キロ 缶詰：718 キロ 野菜：2.6 トン 菓子：2.5 トン 調味料：2.9 トン

## 寄付する側・寄付される側に・・・ 寄付者の声

わたしが野菜づくりを始めたのは、昨年春となります。沢山の野菜を収穫し、ご近所にもお裾分けをして、それでも余るほどの野菜を前にして考えていました。『本当のニーズがある場所に届けられないのか?』と。そんな時に友人から「フードバンクに寄付したら?」との一言。それがフードバンク TAMA とのお付き合いの始まりになります。

野菜を引き取りに来たスタッフの方から貧困家庭のお話を聞きました。夏休みは子供を遅い時間に起床させるそうです。そうすれば3食が2食になるから。そしてお母さんの分を子供に食べさせるので夏休みはお母さんが痩せてしまうとの話を聞きました。わたしも子供がおりますので、涙がこぼれて仕方ありませんでした。美食・グルメと華やかな話題を取り上げるメディアの反対側では、食料廃棄問題や様々な事情を抱えて食べられない人々がいる。

問題の解決はやさしい事では無いのが現実ではあります。しかし今すぐ食糧が必要な人々に届けてくれているその活動のおかげで

救われる人々がいる事もまた事実であります。

ある時いつも元気なスタッフ S さんの電話の声がちょっと違うのを感じました。平日は会社員、週末は活動で動いているのでやはり大変な時もあるだろうと感じ『元気無いように聞こえますが、お体大丈夫ですか?』と言ったら声が元気になり『気にかけてくれて大変嬉しいです』と言っていました。

その時に感じたのは、寄付する側、寄付される側、立場など無いのではないかと。『今回の野菜は〇〇施設に届けます。そこの子供達がすごく良い子でね〜』と孫の話をしているかの如く喜ぶ S さんの姿に心洗われる気持ちになったり、ある施設職員の方からの御礼の手紙に子供達の為に働く姿に頭が下がる思いになったり。謙虚な気持ちになり、救われているのはわたしのほうかもしれないと感じる事があるのです。温かな循環がある社会であるように、微力ながらこれからも応援させていただきたいと思えます。

渡邊紀美子 (多摩市在住)

## 子ども食堂の現場から

日頃より、食品のご支援をいただき、運営メンバー一同、心より感謝致しております。

はちおうじ子ども食堂は、「はらぺこひとりぼっちをなくす」という目的で、オープンした2014年2月より、月1回のペースで続けてまいりました。当初は、固定でカレーライスを出していましたが、フードバンク TAMA より、お米だけでなく多種多様な食材を提供していただいたおかげで、たくさんのメニューを作ることができました。

また、お菓子や保存食など、持ち帰りに調度良い食材は、おみやげとして家庭に届けることができました。活動を続ける中で、子どもたちのニーズも少しずつ見えてきて、経済的な貧困だけでなく、学校や家庭等で居場所がなく、生きづらさを抱える子どもの存在が気になるようになってまいりました。また、子どもたちに、より日常的に関わる場の必要性を感じ、昨年度から「またたびプレイス」という週一の居場所活動を開いております。

大規模でオープンな子ども食堂と、小規模でクローズドな居場所活動の2つを中心に活動しておりますが、どちらも、子どもを取り囲む問題の特効薬にはなりません。しかし、子どもたちの中には、通い続ける中で、頼れる大人が増えて自立したり、活動的になったり、少しずつ変化が現れているように感じております。また、子どもたちの変化に携わる中で、運営メンバーも力をもらっています。フードバンク TAMA が、頻りに運営や子どもたちのことを気かけ、必要な食材を提供してくださるおかげで、これまで不自由なく子どもたちと晩御飯の思い出を作ることができました。はちおうじ子ども食堂やその他の活動では、子どもたちと一緒に、食を通じたあたたかい居場所作りを続けてまいります。学生主体で運営している小さな団体ですが、今後ともご理解とご支援をいただきますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

六車正治 (平成29年度代表)

## 放課後等デイサービスの現場から：お母さん方の声

クリッパーズ (放課後等デイサービス) では、フードバンク TAMA さんからたくさんの食料品をいただいています。それらの食材を、土曜日や祝日、長期休暇などの昼食やおやつ作りに使わせていただき、子どもたちの食事がとても豊かになっています。今年になってから、一人親の方、個人向けに毎月7箱ほど食料品を届けていただいています。保護者の方にお話したら、みなさんととても助かりますとのことでした。毎回とても重い荷物を運んでいただき感謝しています。本当にありがとうございます。迎えの際に持って帰っていただいたり、お子さんが何回かに分けて持って帰ったりしています。子どもたちが自分で持って帰りたいたいと言うとは思っていなかったのですが、「今日の夕飯にするんだ」と、はりきって運んでいます。

お菓子はあと回しでおかずになるものを持っていく子供が多いです。食品が詰められたダンボールが届くと、中を見て、今日は何を持って帰ろうかと話したり、これどうやって食べようかと職員に相談したりしています。我が家も子供は大きいですが一人親です。料理をあまりせず出来合いのもので済ませることが多かったのですが、食料品をいただくようになってから、調理をして家族で食べることが増えました。子どもたちからの声を少し紹介させていただきます。「お米はもっとください。なんでかと言うとお買い物に行かなくていいからです。」「いっぱいありがとうございます。ママがおいしく作ってくれ、たくさん食べました。」子どもたちが家族と楽しく食事する毎日を送る助けになっています。これからもご支援どうぞよろしくお願い致します。